

支援 関係	(内訳)	電話	50	
		来所	7	
		訪問	23	
	事業者相談 (電話・来所のみ)		3	
	(内訳)	介護予防事業委託先	1	
		指定介護保険(予防)事業者	1	
		他の地域包括支援センター	1	
その他相談		1		
プラン 支援 関係	口腔機能向上のアセスメント		17	41件
	プラン作成		12	
	プラン説明		12	
	(内訳)	電話	0	
		来所	2	
訪問		10		
会議・研 修等	現場見学・現場支援等 (訪問による現場相談を含む)		17	27件
	(内訳)	介護予防事業委託先	12	
		指定介護保険(予防)事業者	3	
		他の地域包括支援センター	2	
	研修会・勉強会の支援(講師)		3	
会議・連絡会等への参加		7		
準備・報告・資料作成			11件	
その他の業務補助			11件	

## 2) 口腔機能向上相談支援結果 (参考資料2)

複数の地域にまたがった別々の地域包括支援センター相談支援員の支援記録から、その支援内容は概ね会議・連絡会関係、利用者等への相談支援関係、事業者等の見学・実地支援関係の3種類に分類して整理することができた。

### ○ 会議・連絡会関係

相談支援員としての歯科衛生士が口腔機能向上の相談支援機能を十分発揮するためには、地域包括支

援センターの基本的な業務内容を把握するとともに、市町村の介護予防所管部局の保健師及び保健所の歯科職員との連携支援を綿密に行う必要があった。相談支援員が機能した地域ほど、会議や連絡会を契機にして、電話等で綿密な連携が頻繁にとられていた。

○ 利用者等への相談支援関係

本年度、稼動始めたばかりの地域包括支援センターはその本来業務に追われる忙しい中で、口腔機能向上支援相談員として歯科衛生士が具体的にどのような業務に就くかについて、当初、どこのセンターでも戸惑いがあった。センターの中で「口腔機能の向上」を担当する職員（保健師・看護師）は、歯科衛生士に特定高齢者の確認参加への勧誘や介護予防プランの「口腔機能の向上」部分での作成への手助け、サービス担当者会議での助言等を依頼し、支援内容は定着してきた。

○ 事業者等の見学・実地支援関係

今回、該当の地域包括支援センターを所管する市町村では、すべて介護予防事業の特定高齢者は委託で実施されていた。この委託先は、介護保険の指定通所事業者ばかりでなく、歯科診療所や総合病院など様々な運営母体に「口腔機能の向上」の事業委託先を設けている市町村もあり、展開内容も様々であったが、どこも試行錯誤段階でその支援に苦労していた。歯科医院を除いては歯科衛生士が実施スタッフである事業者はほとんどない現状であったが、医療系では医療サービスのような提供パターンになる傾向があり、福祉系では口腔へのアプローチに尻込みする傾向が認められた。相談支援業務が一段落した後は、市町村からの依頼もあって、歯科衛生士の相談支援員はケースを通じて事業者と地域包括支援センターとの連携推進役となる傾向があった。

D.考察

1) 実施体制の検討

口腔機能向上支援相談員として従事した歯科衛生士、保健所歯科職員（歯科医師、歯科衛生士）、市町村担当保健師、分担研究者、主任研究者等を交え、「口腔機能の向上の実施体制について」を事業促進の観点から自由に検討考察したものを整理し、図1のような現状と課題および改善策が示された。

図1 介護予防「口腔機能の向上」の実施体制について

要素	○=促進要因、 ■=阻害要因、 ☆=改善案
利用者・一般住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 口腔機能の向上への理解は低い、要望もあげられない</li> <li>■ 特定高齢者に「選ばれた」自覚乏しい、その手続きは面倒</li> <li>■ 口腔有訴者は口腔機能向上より歯科医療的な要素の方が強い傾向</li> <li>○ 改善の体験者（談）を広告塔にする ☆啓発ビデオ作成</li> <li>○ 他のサービス利用者への口腔の啓発効果は高い</li> </ul>
市町村（担当課）	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 委託事業所へのサービスの説明や指導が不十分になりがち</li> <li>○ 包括等で歯科衛生士を具体的に活用する（歯科衛生士への周辺状</li> </ul>

	況の情報提供と歯科衛生士からの情報収集)
基本健康診査 (生活機能評価)	■ 基本チェックリスト中で何気なく○を付けていた(住民の口腔への問題意識は薄い)
地域包括支援センター (委託)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ エリア広く(訪問大変)、効率悪い作業、余裕無い</li> <li>■ 行政に「やらされている」意識や不満も生じやすい</li> <li>■ 口腔のサービス提供事業所の受け皿が少ない</li> <li>■ 保健師等にもサービス内容が見えていない</li> <li>■ 利用者からの希望ないと口腔のサービス盛り込みにくい、説得できない</li> <li>○ 利用者等への歯科衛生士の対応に耳をそばだて聞いている</li> <li>○ 担当ケースを通じた体験で最も納得する</li> <li>○ ☆ 歯科衛生士が入る事でサービス対象者の掘り起こしが出来る 他専門職種の理解や連携が得られやすくなる</li> </ul>
介護予防事業委託先  介護保険サービス事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 安い委託料、複雑な書類・手続き、なれない口腔</li> <li>■ 歯科衛生士が入っている事業者少なく、活用されていない</li> <li>■ 口腔機能向上サービスを提供できる事業者は少ない</li> <li>○ マニュアルどおり模範的に取り組めた事業者で予想以上の効果が認められた</li> <li>☆ 模範事業所の取り組み内容のPRや見学</li> <li>○■ 管理者の正しい理解(得られている・得られていない)</li> <li>○ 口腔の対象者把握の逆パターン(包括へ照会する)</li> <li>○☆ 事業所に出向いてのスタッフ勉強会の効果は高い</li> <li>■ 「加算は利用者全員からとる」のトップからの指示</li> <li>■☆ 市と包括と事業所の連携が紙ベースのみ。口腔機能向上相談支援員は、ケースを通じた密なる連携を取ることも可能になる</li> </ul>
歯科衛生士	<ul style="list-style-type: none"> <li>■○ 事業者との契約、賃金交渉おっくう(仕事への責任・緊張感)</li> <li>○■ 記録は大変だが、衛生士ならではの違いを出せる</li> <li>■☆ データ管理ソフトが十分活用できない(研修)</li> <li>☆ 幅広い場での経験を通じて質が向上する</li> </ul>
県(主管課)・保健所	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 保健所の地域歯科衛生士業務研究会が人材育成・研修の場の設定</li> <li>○ 市町村による歯科衛生士活用への働きかけ</li> </ul>

## 2) 口腔機能向上推進の体制づくりについて

厚生労働省は平成19年2月19日全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議において、地域包括支援センターの機能強化の「介護予防支援の人員確保」についてふれ、「介護予防支援業務に従事する人員については、地域包括支援センターに最低限配置しなければならない職員とは異なり、具体的に次

に掲げるものすべて（保健師、介護支援専門員、社会福祉士、経験ある看護師、高齢者保健福祉に関する相談業務等に3年以上従事した社会福祉主事）が認められていることから、これらを積極的に活用されたい」と、多様な人材を活用できることを強調している。しかし、この具体的な職種の中に歯科衛生士は含まれていない。栄養士も同様に含まれていないわけであるが、栄養士は入所施設には必ず、通所系事業所の多くに、配置されている。こんなことを比較的しても、口腔機能の向上は質の平準化が困難な体制にあるメニューであろうかと思われる。

本分担研究では、口腔機能向上相談支援として歯科衛生士をモデル的に地域包括支援センターに派遣し、口腔機能向上関連の相談支援を担いながら、調査員としてその実施体制の情報を得て、今後の実施体制について検討を行った。その促進要因や改善策の検討結果からも、今回のような少数精鋭部隊の歯科衛生士等を育成し、市町村や地域包括支援センター単位に口腔機能向上相談支援員として機能させることが有用な改善策として認識された。

そこで、この口腔機能向上相談支援員を育成し有効に機能させるためには、どのような体制が可能であるか、今回の実践結果から考察してみた。まず、活用の現場としてはいわば福祉や介護での“異分野”の「口腔」関係の職員が新たな連携を育む地域包括支援センターに配置されるべきであろう。しかし、少数職種であり、一定要件を満たす口腔機能向上の支援部隊としての人材育成は、効率性と平準化の視点からは都道府県が集中して担うべきであろう。さらに市町村や常勤の歯科専門職が配置されている都道府県の保健所が重層的に支援し、介護予防支援の「多様な人材」として十二分に活用できれば、今後、口腔機能向上の普及及び質確保対策になりうると考えられる。

口腔機能向上相談支援員（仮称）イメージ
【目的】 介護予防の口腔機能向上プログラム（介護予防事業・介護保険給付サービス）の推進
【育成】 都道府県が市町村の推薦で人材育成し、委嘱する
【活用】 市町村が指導活用、保健所が育成支援
【配置】 地域包括支援センターに駐在（週1，2日程度）

## E. 結論

介護予防の新たなメニューとして注目された「口腔機能の向上」は、模範的に取り組んだ一部の事業者では予想以上の効果が観察された反面、地域包括支援センターでは「口腔機能の向上」への対応が困難な状況や、利用者も自覚に乏しい実態などが明らかとなった。利用者にはその必要性が十分理解されていない実態、また、事業者でその実施に相当の混乱があるなど、介護や福祉にとってなじみの薄い「口腔機能の向上」の厳しい現状が浮かび上がった。今後、模範的な事業所のPRや見学会の実施、利用者や事業従事者への口腔機能の向上の具体的な啓発などの対策を講じる必要があるが、さらに、調査員として派遣した口腔機能向上相談支援員（仮称）のような体制を構築することの有効性も示唆された。

【資料編】

1) 調査票

様式1

<b>「口腔機能の向上」調査員支援記録</b> (口腔機能向上の計画作成から実施評価に関する相談支援を行い、実施上の問題点の抽出と改善策を検討する)		分担研究者	センター管理者	調査員
年      月      日 (      )      調査員氏名 (      )				
契機・時間	支援対象者	具体的支援内容		
	電話、来所、訪問、会議(名)、その他			
内容区分の集計	プラン作成 (      ) ・ アセス関係 (      ) ・ 実施方法 (      ) ・ 利用者相談 (      ) ・ ・ 会議助言 (      ) 、 その他 (      )			

様式2

<b>介護予防に関する見学および補助業務の記録</b> (介護予防に関連する様々な事業やサービスの実地調査や可能な範囲での業務の補助を通じ、 口腔機能向上支援の実施体制について幅広い理解を深める。)		分担研究者	センター管理者
年      月      日 (      )      調査員氏名 (      )			
場所・時間	見学対象区分	具体的内容	
	介護予防事業委託 先、介護保険サー ビス事業者、他		

様式3

平成18年年度 長寿科学総合研究事業「口腔機能の向上の実施体制と評価に関する研究」

月間レポート（調査員として相談支援を行った観察及びセンター職員からの聞き取りから）

1. 次のことで、誰が、どのプロセスで、どんなことで、どんな困難を感じているか。

①「口腔機能の向上」の実施について

②その他関連事項（ ）について

2. 上記の困難を解消するため、どのような支援を希望しているか

3. どのプロセスでどんなことが、円滑な実施の阻害要因となっている

4. 円滑な実施の阻害要因を解消するため考えられること

（後日に分担研究者が全調査員を交え討論予定）

5. その他ご意見・要望など

## 2) 口腔機能向上相談支援記録 (概要抜粋)

(以下の内容は、複数の地域にまたがった別々の地域包括支援センター相談員の記録から、個人や組織を特定できないよう処理し、特殊なものを除き内容で区分して整理した。)

### ○ 会議・連絡会関係

18年 12月 **日 支援員氏名 (***、****、****)		
場所	対象区分	具体的内容
保健所		(分担研究者より) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本研究事業の説明</li> <li>・ 相談員としての立場・役割</li> <li>・ 誓約書 (個人情報保護等) ・ 契約書</li> </ul>
地域包括支援センター		(挨拶回り) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係課長・職員および地域包括支援センター関係職員への紹介</li> </ul>
市役所		(市担当者より) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係市の地域包括支援センター・地域支援事業の現状等について</li> <li>・ 相談業務にあたっての諸注意等</li> </ul>

18年 12月 **日 支援員氏名 (*****)		
場所・時間	見学対象区分	具体的内容
保健所	報告・打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 包括支援センターの相談・支援等の業務内容の報告</li> <li>・ 今後の業務内容について検討</li> </ul>
市役所		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護教室受託事業所への見学について相談・検討</li> </ul>



18年 1月 **日		支援員氏名 ( ***** )
場所・時間	対象区分	具体的内容
市役所	研修講師	<p>口腔機能向上関係者の勉強会</p> <p>(講師) 保健所歯科医師、口腔機能向上相談支援員、市保健師</p> <p>(参加者) 地域包括支援センター職員、 介護予防事業委託事業従事者、 介護保険サービス従事者 . . . . . 約30名</p> <p>(内容) 包括の現状、厚生労働省マニュアル解説、実習</p>

19年 2月 **日 支援員氏名 ( ***** )		
契機・時間	支援対象	具体的支援内容
【会議】 18:30 ～ 20:30	<地域支援事業（特定高齢者施策）連絡会>  包括からの意見 （交通手段の検討）	<p>(出席者) B市介護保険課長・ 担当職員3名 地域包括支援センター職員（4カ所） 地域支援事業受託事業所担当者</p> <p>(開催目的) 18年度実施状況について、各包括・受託事業所より、感想・提案を頂き意見交換をする。</p> <p>(包括) ・担当地域も広く、特定で挙がる数を消化するのに追われ、中々現場との連絡・見学が出来ず意思疎通が図れないこともあり、行き違いなどから小さなトラブルが発生した事も事実です。 ・電話連絡・アセスメント・プラン立案・同意の手続きと事務手続きに振り回されている感じがする。 ・本人の意向がない時に、「どうですか～」と説明し促すだけの余裕が正直ないです。（専門的に勧められないという弱点はある） ・基本健診の際に意識して問診に答える様に、医療機関でも説明する協力を行政から徹底して欲しい。 ・なぜ自分が特定高齢者なのか、わかりやすく説明し理解を深める必要がある。</p> <p>(受託事業所) ・書類上での連絡のため、事前に把握したい情報が遅いと様子が分からず、そのまま事業が開始することもあったため改善して欲しい。 ・参加理由を理解せず参加した方がいたり、状態が重症のため予定していたプログラムが出来ない方がいたり、教室運営に苦勞した。 ・口腔の教室を準備していても参加者が無く残念です。包括の方でも是非、参加を強く勧めて欲しいという要望が出ました。</p> <p>* 口腔に関してはDHの応援で、参加者を誘えました。専門職が教室の効果などを説明し促すと違うが、専門職がいないと説明が弱くなってしまう。立地条件の問題で参加したくても、出来ないことがある。</p> <p>*</p>

契機・時間	支援対象者	具体的支援内容
<p>【会議】 10:00 ～ (20分 間)</p>	<p>&lt;サービス担 当者会議同席 &gt;  72歳 (女性)</p>	<p>介護度変更に伴うサービス担当者会議を実施。 要介護1から要支援2に変更があり、サービス内容変更に伴うプランの説明・同意に同行。 毎日の目標・1年後の目標は、当日の本人との会話から決定し記入する。 (障害) ・右麻痺、 ・言語障害は少しあるが会話は可能 (サービス内容) ・週1回掃除を利用。 *以前S地区に在住、通院が楽になるようにとC市立病院近くに転居し娘夫婦・孫達と同居始める。 寒川では、機能訓練会(言葉の会)に月2回参加していた。 教室では、口腔機能向上のために健口体操・口腔ケアについても実施していたので、現在も自主的に体操などは実施し努力されている。継続出来る環境が整う事が望ましい。</p>
<p>【電話】</p>		<p>&lt;電話連絡&gt; ・特定高齢者対象者への説明・促し。 ・教室参加者へ、確認(実施状況や教室への感想など聞き取り)</p>

○ 利用者等への相談支援関係

18年 12月 **日 支援員氏名 ( *****)		
契機・時間	支援対象者	具体的支援内容
<b>【電話】</b> 12:00 ~	特定高齢者・ 介護予防教室 対象者	<b>【特定高齢者・介護予防教室対象者への電話連絡】</b> <b>*対象者からの疑問</b> 「市から送付された通知だけでは、具体的に何をするのか・どんな効果があるのか解らない。口腔に問題がある事を自覚しているが、教室に通って変われますか」と質問される。 電話連絡の時は、必ず口腔機能向上事業の説明を具体的に話す事と、高齢者の口腔の問題点なども話し、歯科衛生士としてアドバイスを心がける。 迷っている場合は、必要性のアドバイスにより参加を希望するケースが多い。(今回は13名中2名参加)
<b>【来所】</b> 14:00 ~	75歳 (男性) (来所者1名)	プランの説明・同意のサインを頂く (職員が訪問中のため不在) 配食サービスの相談受ける
<b>【来所】</b> 14:30 ~ 15:00~ 18:00		次回出勤日 訪問6ケース(教室参加希望者)の選出 資料準備

18年 12月 **日 支援員氏名 ( ***** )		
契機・時間	支援対象者	具体的支援内容
【保健師に同行訪問】 9:30～	利用者相談 72歳 (女性)	介護教室参加希望があり、申請書記入と状況把握のために訪問教室の説明をしていく中で、「簡単に考えていたが手続きが面倒なら止めます」と断られる。  <理由> ・自分のために受講しようと思っ希望したのに、気軽に受けられない。 ・個人情報をなぜ、教室担当の方にまで知らせる必要があるのか。 ・個人情報の取り扱いに、不信感を持っている。
【来所】 10:30～	利用者直接 73歳 (男性)	介護教室の面接・申請書の記入
【来所】 13:00～	利用者相談 75歳 (男性)	介護予防教室参加者の支援計画表を作成(2ケース) 引き続き、介護予防教室へのご案内の電話連絡。  市役所からの通知が理解出来ず、説明を求める電話が入る。 ・特定高齢者施策・口腔機能向上の教室になぜ選ばれたのか、受けた方が良いのか等。
【電話】 13:30～		
【電話】 16:10	76歳 (男性)	*3項目全部にチェックがあり、詳しい聞き取りでも是非勧めたいケースだったが、時期が悪く、暖かい季節なら希望だった。

18年 12月 \*\*日

支援員氏名 ( \*\*\*\*\* )

契機・時間	支援対象者	具体的支援内容
【訪問】 9:00～	利用者直接 75歳 (女性)	喉に違和感があり改善を希望されたケース 介護予防教室参加の申請書記入・アセスメント
【訪問】 10:00～	70代 (男性)	参加希望ありで訪問。色々と面倒になり考えた結果見送り。 訪問先で面接した奥様の方が義歯も無く、数本の歯で食事をしているため食事に影響が出ている。 奥様こそ改善したいが、基本健康診査未受診のため非該当で受講できない。 口腔の大切さを説明し、まずは自分の健康を守るために、受診を勧める。
【来所】 11:30～	利用者直接 70代 (男性)	「口腔の教室」について詳しい説明が欲しいという事で来所。 説明で納得され、参加希望。申請を受け、アセスメント実施。
【来所】 12:50～	利用者直接 77歳 (男性)	教室参加の申請を受け、アセスメント実施。
【来所】 14:00～	利用者直接 76歳 (女性)	糖尿病のため口渇感があり参加希望。申請・アセスメント実施。
【訪問】 15:00～	70代 (男性)	胃ガンの手術後逆流があり、口腔には気を付けている。 健康に関心の高い方で、教室参加により自分にとって何がどの様になるかを質問される。
16:00～		介護予防教室参加者の支援計画表作成 (3ケース)

18年 12月 **日		支援員氏名 ( *****)
契機・時間	支援対象者	具体的支援内容
【訪問】 9:30~	利用者直接 72歳 (女性)	口腔の乾燥・義歯の不適合により硬い物が噛めないという悩みがあり、予防に関する事は何でも役立つので、自分のためにと強く受講を希望する。
【訪問】 10:00~	75歳 (男性)	「食事中に喉に引っかかる感じ、薬の服用時に残留感が気になる」という訴えがあり、特に嚥下の部分を強化してくれる教室を希望される。口渇感もあり (RSST 2回) 説明で唾液の必要性を更に実感される。
11:40~		支援計画表作成 (3ケース)  支援計画表に基づき、プランの説明・同意のサインを頂く。
【来所】 13:00~	利用者直接 73歳 (男性)	事業所 (ディサービス) から、口腔機能向上サービスについての相談を受け、相談にのり、利用者家族への説明のために訪問する。
【訪問】 14:00~ 16:30	市内事業所	

18年 12月 **日		支援員氏名 ( *****)
契機・時間	支援対象者	具体的支援内容
8:00~ 16:30		「口腔機能向上・介護予防教室」 ・支援計画表作成 (2ケース)
【訪問】	利用者直接	・支援計画表の説明・同意書のサインのため訪問 (5ケース)
【来所】	利用者直接	・支援計画表の説明・同意書のサインのため来所 (1ケース)

19年 1月 **日 支援員氏名(***** )		
機・時間	支援対象者	具体的支援内容
【電話相談】	75歳 女性	<p><u>事業所からの連絡</u></p> <p>「口腔機能向上・介護予防教室参加者の中で、物忘れがひどく、認知症を疑う言動があります。」という連絡を受け、早急に対応するために、事業所に状況確認の電話連絡をする。</p> <p>場所・日時の間違い等が続いたようですが、様子確認で引き続き依頼する。</p> <p><u>本人に確認</u></p> <p>日時・場所の確認をする。</p> <p>本人も勘違いした事は認識している様子。</p> <p>教室の感想を伺うと、「同年代の仲間と勉強が出来、大変楽しく良かったです」という答えが返ってきました。</p> <p>*人の話をゆっくり聞かず、落ち着いた対応が出来ない方のように見受けられるが、ご主人に対する被害妄想的な所が気になる。</p> <p><u>市役所・介護保険課に状況報告</u></p> <p>本人の物忘れ（認知症）の意識もなく、家族からの気付きもないため、関わりが難しく行政の担当者に状況を報告する。</p> <p>ただ、二人暮らしのご主人から受ける嫌がらせの話をされる点が心配であり、行政サイドのフォローを依頼する。</p>
【訪問】	79歳 女性	<p>特定高齢者施策・「口腔機能向上・介護予防教室」</p> <p>プラン作成</p> <p>プラン説明・同意を頂きに訪問</p>



19年 2月 **日 支援員氏名 ( ***** )		
契機・時間	支援対象者	具体的支援内容
<p>【訪問】</p> <p>10:00 ～ (20分 間)</p>	<p>74歳 (女性)</p>	<p>&lt;特定高齢者候補者との面接訪問&gt;</p> <p>電話連絡時に「口腔機能向上」に大変関心が強く、口腔の乾きを改善したいとの訴えあり訪問となる。</p> <p>[状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、息子と二人暮らしのため、家事全般をする。</li> <li>・横浜の娘夫婦・孫と会ったり、電話するのが楽しみ。</li> <li>・趣味は華道だったが、教室も2年前から行かなくなる(A地区まで通うのが遠くて大変)</li> <li>・一日置きの買い物以外は外出も無く、会話も少ない。</li> <li>・最近何をするのも「面倒だな」と感じるようになる。</li> <li>・地域の集まりにも出掛けたが、責任を持たされ時間の制約があるため、ストレス・不安になり長続きしない。</li> <li>・精神的に不安定な状態のため、安定剤を服用することもある。</li> </ul> <p>[支援・指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室への参加は「閉じこもり予防」になると思うが、焦らず状況を見ながら勧めていく。</li> <li>今は、掃除・料理も完璧を求めず、自分のペースで出来る事をする様アドバイスする。</li> <li>・<u>口渇感を改善する舌体操・唾液腺マッサージなどを説明し、気付いたら実行するよう指導する。</u></li> </ul> <p>[市役所・介護保険課に報告]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状況の報告と、確認必要の依頼をする。</li> </ul>

19年 2月 **日 支援員氏名 ( ***** )		
契機・時間	支援対象者	具体的支援内容
<p>【訪問】 10:00 ～</p>	<p>74歳 (女性)</p>	<p>&lt;特定高齢該当者の相談・訪問&gt;</p> <p>口腔の改善を希望するが、教室参加に不安があり今回は見送ったため、口腔機能・健口体操の資料を届けるため二度目の訪問。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人も考え、仲間と一緒に目標を達成することも必要か、また息子からも「折角の機会なのに」と促され、悩んでいる様子。 無理な参加は逆に長続きせずストレスの原因にもなる事を伝え、安定剤が増える事のデメリットを考え、体調が良くなったら参加するように促す。</li> <li>・本日は個別レッスンをし、健口体操・唾液腺のマッサージを再度練習し、習慣にする必要がある事を伝える。 意識して口腔内の状況を改善する事で、食事も美味しく頂けるようになる事を伝える。</li> </ul> <p>&lt;問題点&gt;</p> <p>日中独居のため、会話も無く・空腹感も無く、唯一体を動かすこと はと言えば家事のため疲労感ばかりが残る。息子からの労いもないため空しくなっている。</p> <p>他に目を向けられるようになれば口腔の問題点は改善できると思われる。ただ、諦めていた「口・歯」に関心を持って頂けた。</p>

○ 事業者等の見学・実地支援関係

19年 1月 **日		支援員氏名 ( ***** )
場所・時間	対象区分	具体的内容
10:00 ～ 12:00 A病院	介護予防事業委 託先	<p>&lt;介護予防教室見学&gt; (初日)</p> <p>(スタッフ) 歯科医師 1名 言語聴覚士 3名(補助2名) 介護士 1名(レクリエーション担当)</p> <p>(参加者) 男性3名・女性5名</p> <p>[実施方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔観察, 聞き取り (歯科医師)</li> <li>・RSS T・オーラルディアドコキネシスなど機能面のチェック (言語聴覚士)</li> <li>・染め出し実施 ——— 汚れを各自シートに記入</li> <li>・唾液量テスト実施———— ガムを5分間噛み、唾液を紙コップに吐き出し、注射器で取り計測 (全部取りきれず、時間がかかる)</li> <li>・染め出しで汚れ確認できた部位を、自由にブラッシング (DHの指導が欲しい)</li> <li>・アンケート・指導計画表の「私のゴール」を記入</li> </ul> <p>[気付いた点]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・RSS Tの測定を応援スタッフが十分把握せず、現場で確認しながら実施していた。</li> <li>・RSS Tの測定を目視で計測していて、口渴感があり面接アセス時には2回だったが、教室を紹介した方が3回以上になっていた。目視でどこまで正確に測定出来るのか。</li> <li>・歯科医師は時間でその場に来て、片付け仕事的に見えた。準備の不備などを指摘し、参加者にも嫌な感じを与えてしまう。</li> </ul>
	?	

19年 1月 **日		支援員氏名 ( *****)
場所・時間	見学対象区分	具体的内容
10:00 ～ B歯科医院	介護予防事業委 託先	<p>&lt;介護予防教室見学&gt; (初日)</p> <p>(スタッフ) 歯科衛生士2名 助手2名 (参加者) 7名 (男性6名・女性1名)</p> <p>[実施方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き取り, R S S T, オーラルディアドコキネシスを実施 (歯科衛生士・歯科助手)</li> <li>・口腔内の細菌を観察 事前アセスメント終了者よりプラークを採取し、顕微鏡で自分の口腔内細菌を観察。 *かなりインパクトはある。 「ブラッシングを頑張らないと」と自ら発言あり。</li> </ul> <p>[気付いた点] (助言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーラルディアドコキネシスの検査時、バインダー片手にタイマーの測定をし、ペンでカウントしていたので、誤差が生じるのではないかと思う。(検査マニュアルが徹底されていない)</li> <li>・顕微鏡検査を終え次の方を検査する時、手指消毒が徹底されていないのでは。</li> <li>・待ち時間、歯科助手の和やかな話で会話が弾み、グループの雰囲気も良くなり、集団教育を楽しく、進めやすくしていた。</li> <li>*とても上手に聞き取り・話・検査をしていた職種が歯科衛生士では無く、助手の方と後で判る。</li> </ul>